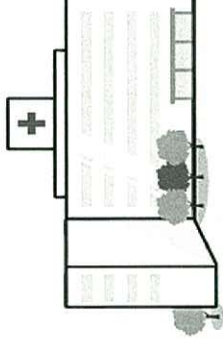
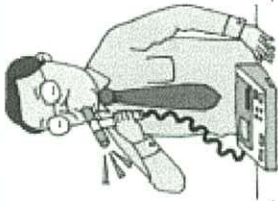


(新)COPD(慢性閉塞性肺疾患)対策モデル事業

【COPDスクリーニング】

既存事業(がん検診・特定健診等)で
スパイロシフトを用いたスクリーニングを実施



【COPD予防講演会】

- ・COPDの認知度向上
- ・疾患に関する知識の普及

ハイリスク者を医療機関へ

【連絡会議の開催】

ハイリスク者を専門医
につなげる仕組みづくり
を協議

モデル市町村

講演会・スクリーニングの実施
ハイリスク者を医療機関へつな
げる体制整備

市町村医師会

市町村から専門の医療機関へ
つなげる仕組みづくりの補助

保健所

市町村と講演会の共催
スクリーニングの指導・補助
連絡会議・報告会の開催

専門の医療機関

市町村より紹介されるハイリス
ク者の治療・フォロー

【事業報告会】

本事業を他市町村に波及させるため、
保健所・市町村を対象に事業の成果報告会を開催

※COPD(慢性閉塞性肺疾患)とは...大気中の有害物質等を吸い込むことにより、気管支や肺胞(酸素を取り込む場所)が慢性的な炎症をおこし、肺の細胞が壊れることで呼吸が苦しくなる病気。原因の約90%が喫煙と言われている。

COPD対策モデル事業実績

1) COPD予防講演会

※モデル市町村だけでなく
県民を対象とした、公開講座として実施

開催日時:平成27年1月24日(土) 13:00~16:30

内 容:①肺年齢測定(臨床検査技師により実施)

②講演会「～肺の生活習慣病～」

COPD(慢性閉塞性肺疾患)をご存じですか？」

講師 友田 恒一 氏(奈良県立医科大学内科学第二講座)

○参加人数:46名

○肺年齢測定者数:35名(上記のうち、測定希望のあった者に対して実施)

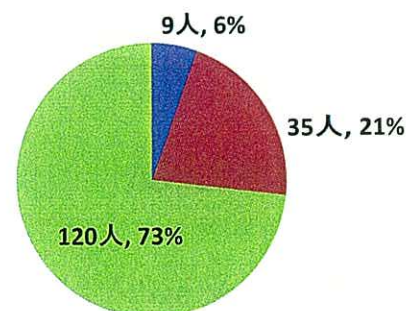
2) モデル3町での肺機能測定と禁煙指導 (上牧町、王寺町、広陵町にて実施)

◆モデル3町において計22回実施し、1,724名が受診。

◆167名がCOPD問診票に記入、151名が肺機能を測定。

	検診等 実施回数	検診等 受診者数	COPD問診票 回答者数	肺機能 測定者数
上牧町	4	486	35	31
王寺町	10	557	49	45
広陵町	8	681	83	75
計	22	1724	167	151

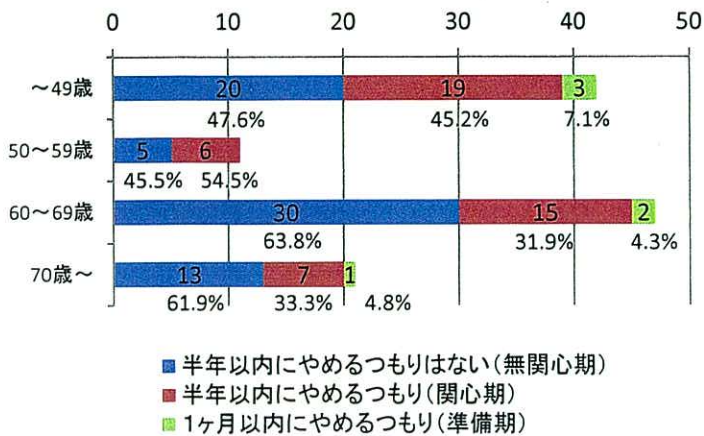
COPD 認知度



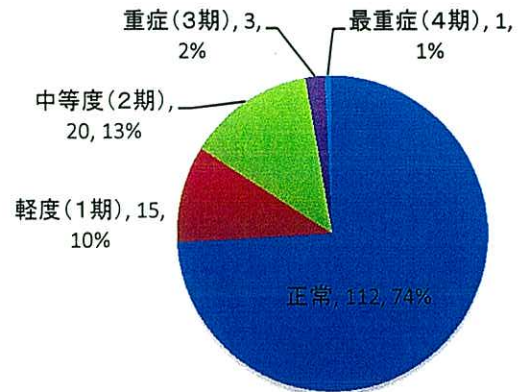
- ①内容を知っている
- ②言葉を聞いたことがあるが内容は知らない
- ③知らない(今回初めて聞いた)

◆COPDの認知度については、73%が「知らない(今回初めて聞いた)」と回答

各年齢階級別 禁煙に対する関心度



測定者のCOPD重症度別割合



◆「無関心期」「関心期」の割合を見ると、60歳以上では、関心期がやや少なく、無関心期がやや多い傾向。

◆測定者のうち、26%がCOPDの疑いあり。最重症者の1名については、医療機関へ紹介。

○COPD認知度は、依然として低く、禁煙指導と併せて、認知度向上の取組が必要。

○60歳未満の方が、禁煙への関心が高い傾向があり、禁煙により享受できる恩恵も大きいことから、アプローチをする対象としては重要。

○スパイロシフトを使用した肺年齢測定は、専門の技師による技術が必要であり県内の市町村に波及させる為には、測定者の技術の習得が必要。

○ハイリスク者については、禁煙治療につなげることはできるが、COPDの治療につなげる基準等については検討が必要。

3) 連絡会議

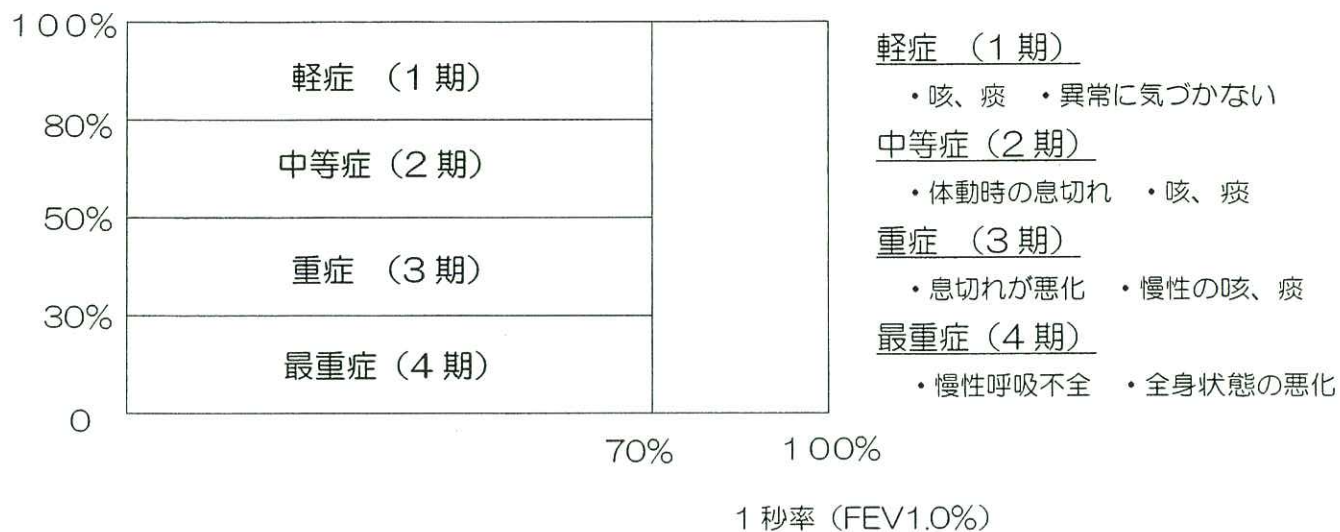
開催日時: 平成27年3月11日(水) ※予定

講師: 高橋裕子先生(奈良女子大学 保健管理センター)
友田恒一先生(奈良県立医科大学 内科学第二講座)

内容: ①今後のCOPDの普及啓発方法について
②COPD対策モデル事業の他市町村での拡大実施について
③その他

肺年齢測定 結果の見方

%1秒量 【 COPD の重症度分類 】



【 用語の意味 】

項目	単位	説明
努力肺活量 FVC	L	息を最大限吸い込んだあとに一気に吐き出した空気量
1秒量 FEV1.0	L	努力肺活量のうち最初の1秒間に吐き出した空気量
1秒率 FEV1.0%	%	努力肺活量に対する1秒量の比率 (1秒量 ÷ 努力肺活量) ※閉塞性障害の目安
予測値		年齢、性別、身長、体重等から計算された予測の値
%予測値、%肺活量、%1秒量	%	予測値に対するそれぞれの測定値の比率